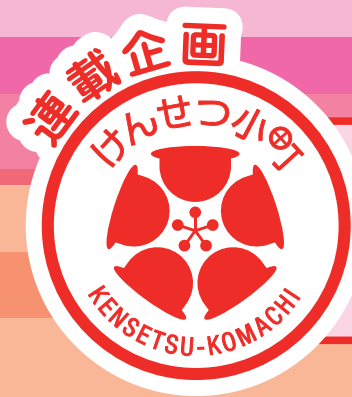
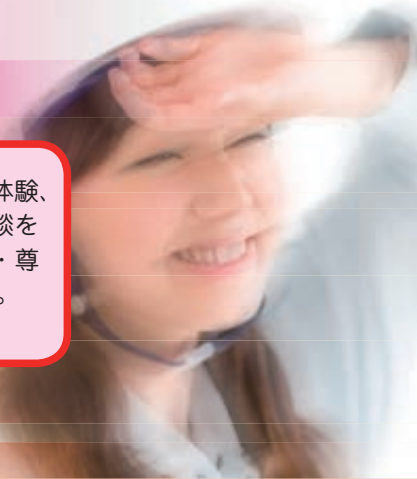




けんせつ小町便り

本企画は、現役女性技術者（けんせつ小町）に自らのさまざまな体験、経歴・履歴を紹介してもらう連載である。今回の連載企画の体験談を通じて、女性技術者を含む読者が触発されて、女性技術者を理解・尊重する機会、さらに働きやすい環境構築の一端となれば、と考える。
(けんせつ小町の愛称は日建連の登録商標です。またロゴマークは登録申請中です。)



第4回 ジェコス(株) 加藤 麻由奈*

1. はじめに

ジェコス(株)の加藤 麻由奈です。女性技術者の一人として、本特集に執筆させていただき、光栄です。私はまだ入社5年目ですが、5年目なりに「けんせつ小町」としての経験と不安や要望を執筆しましたので、少しでも興味を持っていただけたらと思います。

2. 自己紹介

私は現在、仮設鋼構造物の設計計画を担当しています。日頃は、ゼネコンと一緒に仕事をしており、山留や構台の仮設をしています。仮設は、本設の躯体ができると解体し、後に残らなくなってしまうのですが、安全な設計を心がけ、さらに経済性も考慮しなければいけなく、日々勉強中です。

建設という仕事に興味を持った経緯をお話しします。

小さい頃は、大工になるのが夢でした。祖父が大工であつたこともあります。私が物心ついたころにはもう、大工を引退していたので、実際に家を建てているところは見たことないのですが、祖父が建てた家で生まれ育ち、家の骨組みを見るのが好きでした。そして、私もいつか祖父のように家を建てたいと思うようになりました。また、父も大工になりたかったと言っていたのですが、足が不自由でなれなかったとそんな話も聞いていたので、父の思いも多少影響したのかもしれないです。

しかし、高校2年の時の修学旅行で訪れた岡山県で、瀬戸大橋を見学しとても感動しました。その時から、家よりも大きな橋を造りたいと思うようになりました。

そこで、大学は土木を専攻し、念願の構造力学の研究室に配属。研究室に配属されてからは、Japan Steel Bridge Competition (JSBC) という名のコンテスト



インドネシア現地の子どもたちと

に参加し、桁スパン約4mと小さい橋ではありますが、夢であった橋を実際に造ることができたのが、一番の思い出です。自分たちで橋を設計し、職人さんに溶接を学び、橋を作成。そして、施工のスピード・橋の重量・変形・デザインなどを各大学で競いました。

大学の行事とは別に、大学3年の時に、インドネシアで孤児院建設のボランティアに1カ月ほど参加。現地でホームステイをしつつ、現地の人と共に孤児院建設の手伝いを行いました。現地の建物の構造には、大変ショックを受けました。建設途中の孤児院に住む子供たちが、鉄筋むき出しの中、孤児院を裸足で駆け回り、竹で組まれた不安定な足場、地震は滅多におきないという理由で、無造作に組まれたひ弱な鉄筋と強度もわからないコンクリートで孤児院が建てられていました。当時は、言葉も通じなく的確な知識を持っていないので、うまく指導できなかったのが残念な思い出です。

学校では、いろんな経験をさせてもらい、さらに土木の魅力に惹かれ、就職先はジェコス(株)に就職。職種は重仮設という分野ですが、昔から建設物の骨組みを見るのが大好きなので、たまに現場に連れて行ってもらうのを楽しみにしながら、日々設計の業務を行っています。

3. 業務経歴

学生の時は、主にゼネコンの総合職の施工管理を志望して就職活動を行っていました。しかし、就職氷河期ということと、当時は建設会社の女性の採用が消極的で、「うちは女性は事務職しかいない」とか、ひどい時は説明会で質問しているのに目も合わせてくれないなど、とても苦い思い出の就職活動でした。

途中方向転換し、設計を志望し就職活動を続けたところ、やっと今の会社に内定をもらうことができました。



JSBCでの桁橋とプレゼンの様子

* KATOU Mayuna ジェコス(株) 技術部 第4技術グループ | 東京都中央区日本橋浜町2-31-1

入社してから3年目までは主に図面を、4年目からは構造計算を教わるようになり、実際に現場打合せにも参加できるようになりました。

また、先日第4回目となる当社の技術発表会が行われ、そこで優秀賞をいただくことができました。人前で話すことが苦手でしたが、賞を取ることで少しだけ自信につながったと思います。

設計の分野では、女性だからできない、男性だからできるなど、男女の違いは感じません。ただ、やる気はすごくあるのに、もう5年目。5年分の知識はあるのだろうか。ただ、今は目の前にある業務を日々こなしつつ、苦手項目を一つずつなくしていき、知識と経験を増やしていければいいなと思っています。

4. 女性の技術者だからこそできること

最近、「察しない男 説明しない女(作：五百田建成)」という本を読みました。女性が男性と同じように仕事をするようになってからの歴史が浅いため、男性のルールで動いている部分が大いにあります。縦社会でゴリゴリ出世を目指すのが男性、横社会で仲良くするのが女性だそうです。先進国でありながら、女性の社会進出が圧倒的に遅れている日本。昆虫のハチやアリは「女王バチ」「女王アリ」「働きバチ」「働きアリ」みな雌です。

ハチやアリの社会では社長が女性で、社員も女性。ハチやアリみたいにバリバリ働く女性になりたいです。

そこで、私が考える女性の技術者だからこそできること。それは、女性には細かい所まで分析ができ、人の感情を読み取る能力があると思います。この力を活かして、丁寧で正確な仕事をしていきたいと思っています。

5. 今後の目標

今後やりたいことは、ゼネコンに出向して彼ら技術者がどのような観点で物に取り組んでいるか知ることです。また、海外事業も増えてきているので、短期ならば仕事で海外へも行ってみたいです。でも、結婚して子どもも欲しいです。やりたいことがありすぎて、時間が足りません。私はとても好奇心旺盛なので、私に与えられた仕事はなんでも挑戦していきたいです。でもまずは、今の仕事が一人前にこなせるようになるのが目標です。今はまだ、言われるままに設計をこなしているので、今後の目標としては、自分から提案して、先輩と対等に意見交換ができるようになりたいと思います。加藤に任せておけば安心だ、加藤に相談しようなど上司や後輩からも、お客さんからも信頼される技術者になりたいと思います。

ダイバーシティという言葉が流行っていますが、その一環で、大手ゼネコンと当社で若手女性の技術交流会も実施しています。同業他社との交流は、視野や人脈も広

がり、自分と違う境遇の人と接することで、マンネリしていた業務に、良い刺激をもらうことができます。今後も他社との交流会を継続し積極的に参加して、お互い刺激し合って、今後の業務に活かしていけたらいいなと思っています。

最後に、今期の目標です。4月で6年目になりますが、今まで5年間は資格の取得を頑張り、仕事で躍進したいなど10割方仕事に対する目標で、仕事に力を注いできましたが、もう今年で28歳になります。雑誌で大々的に言うことはお恥ずかしい限りですが、今年はプライベートの充実を目標に、仕事と半々で頑張りたいと思いますので、上司のみなさんには暖かく見守ってほしいと思います。(笑)

6. おわりに

最後に、会社や社会に伝えておきたいメッセージとして、まず育児休暇や時短勤務をあげます。女性だけではなく、男性も積極的に取得するようにしてほしいです。夫婦共働きの場合、今の日本ではやはり女性が子育てを主にするのが当然であるかのような風潮を感じます。夫婦共に働き、家事や育児ができる世の中になってほしいです。しかし、社会が変わらなければ、男性も育児休暇や時短勤務を取得しづらいのではないかと思います。調べると、スウェーデンは、男性も女性も育児休暇の取得率が高いとか…。

次に、当社は今年から技術系の女性退職者の有効活用としてCADオペレーター在宅併用パート勤務を導入しました。とても良い制度だと思うので、今後は総合職にも導入していただきたいと思います。また託児施設の導入・会社近くの幼稚園優遇制度・職場から30分以内の場所に社宅ということも検討していただきたいですね。

次に、妊活についてです。最近とある女性芸人が妊活していたのが話題になりましたが、当社は結婚した女性も、残業をしているのをよく見ます。ふと、先輩達がこぼした一言を思い出しました。「子供はほしいけど、仕事が忙しい…」と。残業により、帰るのが遅くなり身体のサイクルが乱れ妊娠しづらくなり、それに悩む女性がいるのが現状です。やはり、結婚した女性も、早く帰すべきではないでしょうか。家事もあるし、妊活も兼ねて。妊活休暇とか、妊活時短勤務とか。恥ずかしくて取得できないかななどと思いたくありません。

まだまだ、建設業界は男性の活躍が主ですが、私たちけんせつ小町も負けず、切磋琢磨して女性ならではの発想で日本の建設業界を活性化していきたいなと思います。微力ではありますが、これからも頑張ります。

そしていつか、海外(発展途上国)でインフラや建築工事の指導が出来ることを目標に。



大手ゼネコンと技術交流会の様子



発展途上国の子どもたちの笑顔を夢みて

次回は、東京都 山崎 かすみ様をお願いいたします。